

「チェキで結晶を撮影する(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ポラロイドカメラ」といえば、昭和時代に流行した「インスタントカメラ」の代名詞的存在だ。まだデジタルカメラなどなかった時代、写したその場で「作品」が見られるカメラは、大流行して、日本でも富士フィルムが販売していた。



私はこの型のものを持っていた。折り畳み式だったがそれでもかさばり、旅行に持って行くには重すぎた。写してすぐに写真が出て来るのは便利なのだが、失敗写真までプリントされてしまい、高いフィルムをずいぶん無駄にしたような気がする。



**A ; レンズ (フォーカスフリー) B ; シャッター
C ; フラッシュ D ; 自撮り用ミラー E ; ズーム環**

ところが最新式のインスタントカメラはすばらしい。これは最近、理科室に8台導入した機種だ。富士フィルムが販売している「デジタル・チェキ」である。

これまでの「チェキ」は、ポラロイドカメラと同じで、撮影後すぐに写真が出てきて現像された。ピンボケや誤ってシャッターを押したなど、失敗写真もプリントされてしまっていた。また、1ショットにつき、1枚しかプリントできず、授業では使いにくかった。

しかし、この「デジタル・チェキ」は全くちがう。写真は内蔵のメモリー(またはSDカード)に記録され、撮影後(活動や実験後)に、よく撮れた写真だけを選んで、プリントできる。同じ写真を複数プリントできるのも有難い。いわば、「プリンター付デジタルカメラ」といったところだろう。



**F ; モニター G ; スイッチ (OFF・動画・静止画)
H ; 再生ボタン J ; 決定ボタン L : プリント
K ; 画像選択・再生時ズーム環**



さっそく、「ものの溶け方」の授業で使ってみた。カメラの説明は一応したが、今の子どもはこうした機器に慣れている。カメラの操作性も「直感」を重視しているので、あっという間に使いこなすようになる。シャッターボタンも全面左右についているので、左利きの子どもでも問題ない。写真は、「塩化アンモニウムの再結晶の一瞬」の撮影に挑んでいるところだ。